

2019 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 看護学科 | | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義演習 |
|--|----------------|-----------------|---|--------------|---|---------------|
| 科 目 名 | 基礎看護学 生活援助論 I | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 1年次 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | |
| 担 当 教 員 | 大谷真由美 赤木 恭美 | 実務経験と その関連資格 | 看護師免許。臨床経験:32年、教育経験:4年 看護師免許。臨床経験:10年、教育経験:8年 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| 人間にとって生きるために必要な食事・栄養、排泄の意味を理解し、対象が健康な生活を送るために必要な基礎知識、援助技術を学習する。また、看護の有効性を裏付ける根拠を明らかにする必要性を理解し、模擬患者やシミュレーターにより実技の実践をする。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| 小テスト・課題提出状況並びに内容・技術演習参加状況・筆記試験により総合的に評価 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| 系統的看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 II 医学書院 看護がみえるVol.1 基礎看護技術 メディックメディア | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| 講義前に事前課題(演習手順書・課題レポート)を提示する。 演習後は演習後の振り返り課題を提示する。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 食事援助の基礎知識として消化・吸収のメカニズムが説明できる | テキスト 配布資料 | (課題) 消化器系の構造と名称を自己学習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 健康生活における食事の意義 食事を摂取する身体の機能と消化・吸収のメカニズム | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 摂食・嚥下能力のアセスメントの方法が説明できる | テキスト 配布資料 | (課題) 咀嚼・嚥下のメカニズムを自己学習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 食事摂取基準について、食欲と食行動に関する要素 摂食・嚥下能力のアセスメント 医療施設で提供される食事の種類と形態 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 栄養状態のアセスメントの方法を理解し、BMIを計算することができる | テキスト 配布資料 | (課題) 皮下脂肪厚の測定方法を調べ学習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 栄養状態のアセスメントの方法(BMIの意義と計算方法、評価基準) アセスメントに必要な検査データとその見方 摂食・嚥下訓練の方法とその実際 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 食事介助の具体的な方法を説明できる。 | テキスト 配布資料 | (課題) 皮下脂肪厚の測定方法を調べ学習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 食事援助の実際の方法 食事援助前・食事中・食後の観察ポイント 非経口的栄養摂取法について(経管栄養の種類と特徴) | | | |
| 第5回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 食事介助技術(全介助)の実習を行う | 演習に必要な物品 | (課題) 食事援助時の注意点、留意点を調べ学習、食事援助の手順書作成、演習の振り返り | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 食事援助技術の実際 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|------------------|--|
| 第6回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 食事介助技術(全介助)の実習を行う | 演習に必要な物品 | (課題) 食事援助時の注意点、留意点を調べ学習、食事援助の手順書作成、演習の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 食事援助技術の実際 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 人間の排泄(排尿・排便に関するメカニズム、意義、排泄のアセスメントの方法)を理解し、健康的な生活を送るために必要な援助方法と基礎知識を習得する。 | 援助に必要な物品 DVD | (課題) レポート課題 講義の復習(小テスト実施) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 排泄の意義～生物的・心理的・社会的意義 自然は遺尿および自然排便の基礎知識 排尿・排便のアセスメント | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 自然排尿・排便の援助方法を学ぶ。床上排泄やおむつによる排泄介助の方法の基礎知識を習得する。 | 援助に必要な物品 DVD | (課題) レポート課題 便器・尿器のあて方、おむつ交換の手順書作成 講義の復習(小テスト実施) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 床上排泄の援助～尿器・便器のあて方 トイレにおける排泄介助 おむつによる排泄(おむつ交換) | | |
| 第9回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 床上での排泄援助、おむつによる排泄援助を模擬患者とシュミレーターで実践する。 | 援助に必要な物品シュミレーター | (課題) 演習の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 床上排泄の援助 演習 ～尿器・便器のあて方 おむつによる排泄援助 演習おむつのあて方・おむつ交換 模擬患者とシュミレーターで実践 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 排尿困難のある人への援助方法と基礎知識を習得する。 | 援助に必要な物品 DVD | (課題) レポート課題 一時導尿の手順書作成 講義の復習(小テスト実施) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 排泄困難のある人への援助～導尿(一時的・持続的)・失禁の原因と対応 | | |
| 第11回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 排尿困難にある人への援助で、一時的導尿の援助をシュミレーターで実践する。 | 援助に必要な物品シュミレーター | (課題) 演習の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 排泄困難のある人への援助の演習～導尿(一時的) シュミレーターで実践 | | |
| 第12回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 排尿困難にある人への援助で、一時的導尿の援助をシュミレーターで実践する。 | 援助に必要な物品シュミレーター | (課題) 演習の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 排泄困難のある人への援助の演習～導尿(一時的) シュミレーターで実践 | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 排便困難のある人の援助の方法(浣腸・摘便)と基礎知識(便秘)を習得する。また、ストーマケアについて理解する。 | 援助に必要な物品 DVD | (課題) レポート課題 浣腸の手順書作成 講義の復習(小テスト実施) |
| | | 各コマにおける授業予定 | 排便困難のある人への援助～便秘について 便秘のアセスメント・便秘改善の看護・浣腸・摘便 ストーマケア | | |
| 第14回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 排便困難にある人への援助で、浣腸の援助をシュミレーターで実践する。 | 援助に必要な物品シュミレーター | (課題) 演習の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 排便困難のある人への援助の演習～浣腸 シュミレーターで実践 | | |
| 第15回 | 演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 排便困難にある人への援助で、浣腸の援助をシュミレーターで実践する。 | 援助に必要な物品 シュミレーター | (課題) 演習の振り返り |
| | | 各コマにおける授業予定 | 排便困難のある人への援助の演習～浣腸 シュミレーターで実践 | | |